

# JCES ニュース

Japan Comparative Education Society, No. 44

## 目次

1. [会長就任にあたって](#)
2. [第 59 回大会を終えて](#)
3. [第 33 回平塚賞の選考について](#)
4. [総会報告（第 59 回大会総会）](#)
5. [日本比較教育学会役員一覧（2023～2025 年度）](#)
6. [新委員会委員長からのご挨拶](#)
7. [法人化検討委員会からの報告](#)
8. [学会創設 60 周年記念事業について](#)
9. [第 60 回大会について](#)
10. [お知らせ](#)
  - 2022 年度会計報告
  - 2023 年度予算案
  - ニュースレター44 号発行の延期について
  - 事務局の移転について
  - 学会への寄贈図書
  - 新入会員
  - 年会費納入のお願い
  - 特別会員制度について

## 1. 会長就任にあたって

日本比較教育学会 会長  
服部 美奈

ニュースレターの冒頭で大変恐縮ですが、一言ご挨拶させていただきます。このたび第 17 代の日本比較教育学会会長を拝命いたしました服部美奈です。会員の皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。これから 3 年間、名古屋大学に学会事務局を置かせていただきます。名古屋大学に事務局が置かれますのは、馬越徹先生が第 12 代会長をおつとめになられました 2001 年度～2004 年度以来となります。

去る 6 月 17 日～18 日、24 日～25 日に上智大学で開催されました日本比較教育学会第 59 回大会におきまして会長職をお引き受けしてから、時間を経るにつれてますます責任の重みを感じておりま



す。これまで会長をつとめられた先生方の偉大なご功績を考えると、ふと足がすくむような感覚を覚えます。しかしながら、背中を押してくださった皆様の期待を真摯に受けとめ、これまで学会が積み上げてきた知の遺産を継承し、自らも一から学び直しながら学会の発展に微力を尽くしたいと思っております。会員の皆様のご指導・ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

学会運営ではまず、すべきこと、考えるべきことを一つ一つ地道に進めたいと思っております。そして、できる限り多くの会員の皆様に学会活動に参画していただき、新しい時代の流れを敏感に受けとめつつ、よき伝統も引き継ぎながら共に楽しく温かい学会を作っていきたいと思っております。

日本比較教育学会は、2025年3月末に創設60年を迎えます。世界の高等教育が、いわゆる「世界標準」で測られるようになってから、知のあり方、特に人文社会科学のあり方がこれまで予期しなかった思わぬ方面から問いただされ、これまでの学問のあり方に対して「反省」させられることが多くなっているように思います。しかしながら私は、比較教育学とそれを担ってこられた先生方に育てられ、世界の多様性を知り、自分の無知を知ることで、一人の研究者としてだけでなく、一人の人間として成長させていただく糧をいただけてきました。それはきっと私だけではないと思います。

学問の行く末が厳しい岐路に立たされるなかで、誰が私たちの知と経験を必要とし、また逆に私たちは誰に発信すべきかを改めて考えつつ、比較教育学という学問領域がもつ意義と奥深さを伝えていきたいと思っております。この不安定で脆弱な世界を力強く生きていくための糧となるような学問であり続けるために、責任を持って会長としての職責を果たしたいと思っております。受け継いだ大切な絆をできるだけよい形でのちの世代につなげられるように誠意を尽くしたいと思いますので、会員の皆様におかれましてはこれから3年間、共に歩んでくださいますよう、心からお願い申し上げます。

幸い今は、長く暗いトンネルのなかに閉じ込められてしまったかのようなコロナ禍がようやく開けつつあり、それにともない再び活動が活発になってきています。学会開催も対面が戻り、足止めされていた海外調査も再開されるようになりました。大変な時代ですが、この時代を明るく生き抜くために、コロナ禍で得た多くの教訓と気づきを生かしつつ、時代の流れを敏感に捉えた学会運営ができればと考えております。何卒よろしく願いいたします。

## 2. 第59回大会を終えて

### 第59回大会準備委員長 杉村 美紀

日本比較教育学会第59回大会は、6月17日～18日にオンラインで、6月24日～25日に上智大学四谷キャンパスにおいて二部形式で開催されました。皆様のご協力のおかげで2019年の第55回大会（東京外国語大学）以来、4年ぶりに対面で大会を開催させていただきましたことに、大会準備委員会を代表しまして心からお礼申し上げます。

上智大学での開催は、第49回大会に続き2回目、前回は創立100周年記念を、今回は110周年記念の大会となりました。オンラインと対面を組み合わせるとの大会が開催できたのも、ひとえに2020年の第56回大会（中村学園大学並びに中村学園短期大学部：コロナ禍で中止）、第57回大会（筑波大学）、さらに第58回大会（北海道・東北地区）での実績があったからこそです。

今回の大会開催にあたっては、コロナ禍状況が悪化した場合にはオンラインに切り替えて実施できるようにと考え、日程を分けて実施させていただきました。初めての試みであり、会員の皆様にはご迷惑をおかけしたことも多々あったかと思いますが、おかげさまで通常会員246名、学

生会員 60 名、特別会員 4 名、臨時会員 87 名、計 397 名のご参加をいただき、自由研究発表 138 件、ラウンドテーブル 9 件と多くの皆様にご参加いただくことができました。本当にありがとうございました。

公開シンポジウムは「持続可能な社会に向けた学びの共同体」をテーマとし、日英同時通訳を入れる形でオンラインとのハイブリッド形式で行いました。佐藤学・東大名誉教授を基調講演にお迎えし、教育の変革が国内外で注目されるなか、人々の学びを今一度どのようにとらえなおすかという議論が展開されました。このシンポジウムは上智大学が年に 2 回開催する「国連ウィーク」の企画の一つに位置付けたこともあり、当日は会場に約 300 名、オンラインでも約 250 名のご参加をいただきました。また大会校企画の課題研究Ⅰでは「途上国における海外留学のインパクトに関する比較実証研究—アセアンの主要大学の教員の海外留学経験をもとに—」を、また研究委員会企画による課題研究Ⅱでは「SDGs 時代に見る教育の普遍化と格差—アフリカの事例と国際比較から読み解く—」が開催されました。今回は、上智大学の支援により、課題研究も公開とし、同時通訳を入れたハイブリッド形式で実施しました。

オンラインでは、前回の大会で始まった協賛出版社によるブックトークセッションを企画し、東信堂、明石書店、学事出版、上智大学出版の 4 社にご参加いただきました。またこれも昨年好評だったラウンドテーブルの 2 部制を継続し、参加者が複数のラウンドテーブルに参加することができるようにしました。今回は日曜日の朝に对面で実施しましたが、多くの方々にご参加いただき、若手交流会とともに大変熱心な議論が繰り広げられました。特に、コロナ禍の中で誕生した若手ネットワーク委員会並びに学生会員委員の方々による活動は、日本比較教育学会のこれからを共に担う頼もしい存在として印象に残られた方も多いと思います。

さらに学内の学生食堂で行った情報交換会には、事前登録だけでも 130 名の登録があり、北村さゆり氏（上智大学短期大学部）の上智大学の校歌独唱に始まり、大変盛り上がりました。会の終盤には、上智大学のマスコットキャラクター「ソフィアン君」も登場しました。本当は勇猛果敢なイーグル（鷲）でありながら、どうみてもアヒルのように見える愛嬌あふれるソフィアン君も、参加者の名札を首から得意そうにかけてうれしそうでした。

こうした大会運営を円滑に進めるにあたり、前大会校の東北大学の皆様をはじめ、ガリレオ社、epoch-net 社、アスペクトコア社の丁寧なサポートをそれぞれいただいたことに感謝申し上げます。また、共催の上智大学総合人間科学部教育学科、上智大学学術研究特別推進プロジェクト（Sophia-ESD）、ご協力いただいた東アジア教育研究所、Sophia GED にもお礼申し上げます。さらにオンラインから对面に至る一連のプログラム運営を手伝ってくれた上智大学の学生 30 名は、すべてボランティアで活動してくれました。

上智大学では、これまで 6 年間にわたり学会事務局をお預かりしてきたことともあり、今回の大会をいろいろな意味で節目とさせていただくことができました。このような貴重な機会を頂戴しましたことに重ねてお礼申し上げます。大学が公開シンポジウムおよび課題研究の開催費用および施設使用料を全面的にバックアップしてくれたこともあり、開催費用も予算内で終わることが出来ましたこともあわせてご報告いたします。

来年は、この 6 月より新たに日本比較教育学会長に就任された服部美奈先生のもと、第 60 回記念大会を名古屋大学で開催いただけることとなりました。また皆様とご一緒させていただきますのを楽しみにさせていただきます。この度は本当にありがとうございました。



公開シンポジウム



課題研究 I



若手交流会



課題研究 II



ソフィアン君

### 3. 第 33 回平塚賞の選考を終えて

平塚賞運営委員会 委員長  
竹熊 尚夫

第 33 回の平塚賞運営委員会では、主に平塚賞の選考と規約の改定について取り組んで参りました。まず平塚賞の選考については、昨年末までに発行された研究論文、研究図書についてニューズレター等で募集を行った結果、今回は自薦 1 件と他薦 1 件の 2 件の応募がありました。この 2 作品について、審査委員会では慎重に審議した結果、残念ながら今回の平塚賞については候補作品なしとの結論に至りましたことをご報告いたします。また、これまで毎年、多くの応募を頂いていましたが、今回、応募が二件のみであったことについても運営委員会で議論され、広報についても HP、メール等でのさまざまな手段で会員の皆さんにお知らせしていくことも検討課題としていくこととなりました。この中では、刊行時期、期間、更なる国際化に向けた取り組みなどについても、新しい運営員会でご検討いただくこととなっております。また、運営委員会では、継続審議であった運営委員会と審査委員会の関係性を明確にした規定を理事会で承認いただきました。新规定は本ニューズレター、紀要巻末やホームページでご確認いただけます。3 年間、甚だ力不足のところがありましたが、会員の皆様のご支援、ご協力で何とか責務を全うできたと思います。これまでありがとうございました。今後も新しい平塚賞運営委員会をどうぞよろしくお願い致します。

日本比較教育学会平塚賞規定 (2023 年 6 月 17 日理事会改正)

- 1 名称：賞の名称を、日本比較教育学会平塚賞とする。

- 2 趣旨：本賞は、初代会長平塚益徳博士の業績を記念し、比較教育学研究の発展を期して、若手学会員の研究を奨励することを目的とする。
- 3 対象者と賞金：選考の対象となる「若手学会員」は、著作が発表された時点で、40 歳程度を上限とする学会員とする。受賞者は毎年原則として1名とし、受賞者には賞状ならびに賞金10万円を授与する。
- 4 運営委員会：平塚賞の運営のために運営委員会を置く。運営委員は、本学会理事の互選により、原則として10名で構成する。運営委員の任期は3年とし、再任は妨げない。欠員が生じた場合は互選時の得票順に繰り上げ当選とする。運営委員長は運営委員の互選による。
- 5 選考対象：選考対象となる著作は、前年の1月から12月までに公刊された学会紀要掲載論文ならびに比較教育学研究に関する著書・論文（分担執筆を含む。ただし連名のものを除く）で、会員の自薦あるいは他薦により、本学会平塚賞運営委員会あて、毎年1月31日（必着）までに、この賞に応募する旨、所定の推薦書により申し出たものとする。（当該著書・論文1部を届け出ること。）
- 6 選考委員会：平塚賞運営委員会の下に平塚賞候補作の選考のための選考委員会を置く。選考委員会委員、選考委員長はそれぞれ、運営委員および運営委員長が兼務する。選考委員会は、当該委員会委員以外から専門家の意見を聞くことができる。
- 7 選考手順：選考委員会において選考を行い、運営委員会での承認を経て受賞者を決定し、運営委員長より理事会に報告の後、年次大会において表彰する。
- 8 特別賞：選考委員会は、平塚賞に準じると認められた研究に対して平塚賞選考委員会特別賞の授与を運営委員会に提議することができる。同賞は、賞状の授与のみとする。
- 9 この規定は、会則第24条に基づき、理事会が定めるものとする。
- 10 この規定は平成2年度から施行する。

この規定は平成5年度から施行する。

この規定は平成16年度から施行する。

この規定は平成19年度から施行する。

この規定は平成26年度から施行する。

この規定は平成27年度から施行する。

この規定は令和元年度から施行する。

この規定は令和5年度から施行する。

#### 4. 総会報告（第59回大会総会）

2023年6月24日（土）に、第59回大会総会が開催されました。総会の議事次第は以下の通りです。

日時：2023年6月24日（土）12：00～14：30

場所：上智大学

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 大会校ご挨拶
4. 議長団選出
5. 2022年度事業報告（事務局、各種委員会）
6. 法人化検討委員会からの報告
7. 2022年度決算報告および監査報告
8. 選挙管理委員会からの報告
9. 新旧事務局の交代
10. 旧会長挨拶
11. 新会長挨拶
12. 2023年度事業計画（各種委員会）
13. 法人化に向けた体制整備について
14. 学会創設60周年記念事業について
15. 2023年度予算案（事務局）
16. 第60回大会について
17. 閉会の辞

#### 5. 日本比較教育学会役員一覧（2023～2025年度）

●会長 服部 美奈(名古屋大学)

●事務局長 松本 麻人(名古屋大学)

●理事（○印は常任理事）

〔北海道・東北地区〕（2名）

○青木 麻衣子(北海道大学)

劉 靖(東北大学)

〔関東地区〕（14名）

江原 裕美(帝京大学)

○鴨川 明子(山梨大学)

川口 純(筑波大学)

菊地 かおり(筑波大学)

北村 友人(東京大学)

○黒田 一雄(早稲田大学)

澤野 由紀子(聖心女子大学)

○杉村 美紀(上智大学)

西村 幹子(国際基督教大学)

○福留 東土(東京大学)

藤井 穂高(筑波大学)

○丸山 英樹(上智大学)

○森下 稔(東京海洋大学)

渡邊 あや(津田塾大学)

〔東海・北陸地区〕（3名）

○服部 美奈(名古屋大学)

○松本 麻人(名古屋大学)

○山田 肖子(名古屋大学)

〔近畿地区〕（7名）

○乾 美紀(兵庫県立大学)

小川 啓一(神戸大学)

坂上 勝基(神戸大学)  
○杉本 均(佛教大学)  
近田 政博(神戸大学)  
○南部 広孝(京都大学)  
山内 乾史(佛教大学)

〔中国・四国地区〕(4名)

○小川 佳万(広島大学)  
日下部 達哉(広島大学)  
牧 貴愛(広島大学)  
吉田 和浩(広島大学)

〔九州地区〕(2名)

○佐藤 仁(福岡大学)  
花井 渉(九州大学)

●監査

市川 誠(立教大学)  
日暮 トモ子(日本大学)

●幹事 (○印は常任幹事)  
〔北海道・東北地区〕  
飯田 直弘(北海道大学)

〔関東地区〕

市川 桂(東京海洋大学)  
谷口 利律(早稲田大学)

〔東海・北陸地区〕

○草薨 佳奈子(名古屋大学)  
○神内 陽子(名古屋大学)  
○千田 沙也加(中京大学)

〔近畿地区〕

関口 洋平(畿央大学)  
吉田 夏帆(兵庫教育大学)

〔中国・四国地区〕

坂田 のぞみ(広島大学)

〔九州地区〕

伊藤 亜希子(福岡大学)

【委員会】

●平塚賞運営委員会 (10名)

委員長 乾 美紀

委員

小川 佳万

鴨川 明子

日下部 達哉

佐藤 仁

杉村 美紀

杉本 均

南部 広孝

服部 美奈

森下 稔

●紀要編集委員会 (13名)

委員長 (前期) 福留 東土

委員長 (後期) 小川 佳万

委員

伊井 義人

飯田 直弘

太田 浩

木戸 裕

竹熊 尚夫

長嶺 宏作

西村 幹子

羽谷 沙織

山崎 直也

渡邊 あや

渡辺 雅幸

編集幹事 (前期) 岩淵 和祥

王 帥

川村 真理

編集幹事 (後期) 未定

●研究委員会 (7名)

委員長 佐藤 仁

委員

秋庭 裕子

萩巢 崇世

京免 徹雄

橋本 憲幸  
林 寛平  
星野 晶成

●国際交流委員会 (6名)

委員長 黒田 一雄  
委員  
芦田 明美  
内海 悠二  
北村 友人  
関口 洋平  
劉 靖

●若手ネットワーク委員会 (12名)

委員長 鴨川 明子  
委員  
小川 未空  
小原 優貴  
神内 陽子  
守谷 富士彦  
吉田 翔太郎

学生会員委員代表 八木 歩  
学生会員委員  
今泉 尚子  
須藤 玲  
田島 夕貴  
橋本 拓夢  
松田 華織

●広報委員会(7名)

委員長 丸山 英樹  
委員  
川口 純  
日下部 達哉  
黒川 智恵美  
坂口 真康  
島埜内 恵  
松本 麻人

●WCCES 担当理事

服部 美奈  
山田 肖子

●教育関連学会連絡協議会 担当理事

杉村 美紀

## 6. 新委員会委員長からのご挨拶

### 平塚賞運営委員会

#### 委員長 乾 美紀

竹熊（前）委員長より引き継ぎを受け、今年度より平塚賞運営委員会委員長を拝命しました。時代を遡り、第15回（2005年）に同賞を受賞した身分としては身が引き締まる思いです。第34回平塚賞候補作品を例年通り下記の要領で募集します。応募は自薦・他薦を問いません。多くの会員からの応募を期待しています。

対象作品：2023年1月～12月に公刊された比較教育学に関する著書・論文（分担執筆を含む。ただし連名のものを除く）

応募要領：本学会ホームページ掲載の「平塚賞候補著書・論文推薦書」（MS-Word, PDF）に必要事項を記入し、当該著書・論文1部とともに提出すること。

締め切り：2024年1月31日（水）（必着）

送付先

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-39-2-401（株）ガリレオ気付  
日本比較教育学会・平塚賞運営委員会  
委員長 乾 美紀

問い合わせ先：[g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp](mailto:g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp)

ご不明な点は何なりとお問い合わせください。今後どうぞよろしくお願いたします。

## 紀要編集委員会

委員長(前期) 福留 東土

この度、紀要編集委員長(前期)を拝命しました東京大学の福留です。学会員の質の高い研究成果を多く掲載する学会誌を刊行できるよう取り組みたいと思います。どうぞよろしくお願申し上げます。

9月現在、紀要第68号の編集を進めています。次号(69号)の原稿の投稿期限は2024年1月20日です。多くの会員の皆様の投稿をお待ちしています。ぜひ日頃の研究成果を発表する媒体として本学会誌を活用いただきたいと思います。投稿に向けた準備を早目に進めていただけると幸いです。

編集中の68号での特集として、上智大学で開催された第59回大会での企画の中から、公開シンポジウム「持続可能な未来に向けた「学びの共同体」」、および課題研究II「SDGs時代にみる教育の普遍化と格差—アフリカの事例と国際比較から読み解く—」の2つの特集を組むことになりました。大会当日の議論の熱気が伝わるような特集にしたいと思います。

現在、紀要編集委員会では、学会員の論文投稿、ならびに編集委員の審査における利便性の向上を図るため、オンライン投稿システムの導入を検討しています。導入のタイミング、オンラインシステムへの移行の方法については未定ですが、決まり次第、会員の皆様にお知らせします。

前期の委員会では12名の編集委員にご就任いただきました。また、編集幹事として通常より多い3名(川村真理、王帥、岩淵和祥)にご就任いただきました。編集委員、編集幹事の皆様の多大なご協力に感謝申し上げます。

編集委員会事務局の新しい連絡先は以下の通りです。次号69号の投稿方法については、上記オンライン投稿システムの検討状況と合わせて改めてお知らせします。

紀要編集委員会事務局(第68号~70号)

〒113-0033

東京都文京区本郷7丁目3-1

東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センター

日本比較教育学会紀要編集委員会事務局

Email: [jces.kiyou@gmail.com](mailto:jces.kiyou@gmail.com)

Tel: 03-5841-1749(編集幹事: 岩淵和祥)

## 研究委員会

委員長 佐藤 仁

研究委員長を拝命いたしました佐藤です。至らぬ点多々あるかと思いますが、3年間、どうぞよろしくお願いたします。

研究委員会の活動としては、まず大会での課題研究の企画があります。とりいそぎ来年度の大会に向けては、委員の方々と協議してテーマを検討してまいります。会員の皆さまでもアイデアがありましたら、ぜひご連絡いただければと思います。次に、研究委員会が企画するセミナー等

です。大会での課題研究に加えて、比較教育学に関するトピックのセミナーや研究支援にかかるセミナー等を企画できればと思っております。こちらにつきましても、会員の方からのニーズに沿う形で企画できればと思っております。その他、研究委員会で検討した内容を何かしらの形で会員の皆様に還元できるように努めてまいります。

## 国際交流委員会

委員長 黒田 一雄

服部新会長のもと、国際交流委員会委員長を拝命いたしました黒田です。これから3年間、精一杯努めたいと思っておりますのでよろしくご指導下さい。国際交流委員会では海外の比較教育学研究者、CESA（アジア比較教育学会）、CIES（北米比較国際教育学会）等、海外主要学会及び、ユネスコ等の国際機関との交流促進のための企画をしていきたいと考えています。会員の皆様方からの情報提供・ご提案やご協力をお待ちしています。

この場を借りまして、1件ご案内です。CESAの国際大会が2023年11月24～26日の日程で、広島で開催されます。発表申し込みは締め切られていますが、今からでも一般参加は可能です。皆様、奮ってご参加ください。

<https://www.cesa2023.jp/>

## 広報委員会

委員長 丸山 英樹

このたび広報委員会委員長を拝命しました。人工知能（AI）による情報生成の影響も受け、様々な情報が飛び交う中、学会からの適切な情報共有と調整ができるよう多様なチャンネルを活用していきたいと存じます。

これまでの委員会活動では、紀要論文のJ-StageへのPDFアップロード、メーリングリスト（ML）による会員から提供される情報の共有、ガリレオ管理のWebサイトによる情報発信を行ってきました。今後はそれらを継続、改善させながらも、より使いやすい&サステイナブルな方針で参りたいと存じます。

情報発信・共有の点から注力していきたい点は、各種委員会との連携です。MLの活用に加えて、Webサイトの効率化およびSNSによる共有の簡素化を心がけて参りたいと存じます。その一つの試みとして、X（旧ツイッター）を開設しました。アカウントをお持ちの方は、ぜひフォローしてやってください。

<https://twitter.com/JapanComparaEd>

こうした委員会活動の充実と効率化のため、今期から委員の他に、適時ご助言をいただけるアドバイザーにもご就任いただいております。広報やSNSにご関心ある方、ぜひアドバイザーとしてご協力いただければ幸いです。ご連絡は、丸山宛か上記Xにメッセージいただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 若手ネットワーク委員会（Y-Net）

委員長 鴨川 明子

若手ネットワーク委員長（Y-Net）委員長を拝命いたしました。委員の先生方、学生会員委員

の方々とともに、力を合わせて取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

今期の Y-Net は、2つの全体方針を掲げております。第1に、ネットワークを活かして、「若手にしかできないこと」に挑戦する、第2に、持続可能性に鑑み、「イベントのスリム化」を図るという2つの方針です。

具体的には、①年次大会時における若手研究者交流会・発表を継続しつつ、②学生会員委員を中心とする新たな企画を行って参りたいと思います。特に、国内外を問わず、他学会との交流を目的としたイベント、学生向けや任期付き研究者向けなど、対象者のニーズに合わせた企画にチャレンジできればと思っております。

なお、今期は、学生会員委員代表を神戸大学大学院の八木歩会員が務めてくださいます。会員の方々からのご意見やアイデアを、ぜひとも、委員会専用のメールアドレス [jcs.ynet@gmail.com](mailto:jcs.ynet@gmail.com) までお寄せください。

## 世界比較教育学会（WCCES）からのお知らせ

担当理事 服部 美奈・山田 肖子

今期、WCCES 担当理事を拝命いたしました。今期は会長のほか、WCCES 連携強化のため山田肖子理事に加わっていただくことにいたしました。今期の活動計画は、前任の杉村会長が推進された活動を基本的に継承しつつ進めてまいります。具体的には、(1) WCCES の活動状況及び情報の提供 (WCCES 世界大会、WCCES シンポジウムなど)、(2) WCCES 理事会への参加、(3) WCCES メンバーとの連携、(4) 日本比較教育学会の活動の海外への発信です。

2024 年の第 18 回 WCCES 世界大会は、WCCES の Assie-Lumumba 会長が所属される米国のコーネル大学での開催となりました。第 18 回大会の概要は以下の通りです。皆さま、奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

日時：2024 年 7 月 22～26 日

場所：米国コーネル大学

開催形式：対面およびオンライン

テーマ：Fostering Inclusive Ecologies of Knowledge: Education for Equitable and Sustainable Futures

Co-convenor：UNESCO

Co-organizer：Indian Ocean Comparative Education Society (IOCES), Nederlandstalig Genootschap voor Vergelijkende Studie van Onderwijs en Opvoeding (NGVO)

大会ホームページ：<https://www.theworldcouncil.net/xviii-world-congress-2024.html>

## 教育関連学会連絡協議会

担当理事 杉村 美紀

このたび教育関連学会連絡協議会担当理事を拝命しました。前任の中矢礼美先生（広島大学）の後を受け継ぎ、関連学会との連絡担当をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

教育関連学会連絡協議会では、今般 8 月に行われた運営委員会にて、2024 年 3 月 9 日に総会・教育関連学会連絡協議会シンポジウムを開催することが決定されました。テーマは、大学にお

ける教員養成を主題としたものになる予定です。詳細等わかりましたらまた別途お知らせいたします。

## 7. 法人化検討委員会からの報告

担当理事 南部広孝

学会の法人化に関する議論は杉村会長のもとで 2021 年度に始まりました。常任理事会、全国理事会での議論を経た後、2022 年 6 月 25 日の総会で法人化に向けた検討を行う委員会を立ち上げることが承認され、それを受けて同年 9 月 8 日の常任委員会において、法人化検討委員会の設置と委員（福留東土会員、白幡真紀会員、南部）の就任が承認されました。その後、2023 年 5 月 21 日にかけて委員会を計 6 回開催し、①法人化のメリット及びデメリット、②本学会が法人化する場合の運営体制や会計、③法人への移行のプロセスなどについて検討を進めました。特に②に関しては、現在の学会のあり方をなるべく変えないようにすることを前提に、法人化にあたって変更せざるを得ない点は何か、その変更についてどのように考えればよいかを整理しました。また、検討の過程で、行政書士にアドバイスを求め、臨時の全国理事会の形式で検討内容を理事、幹事に説明して意見を求める機会を持ちました。そして、①理事の任期、②理事会の位置づけ、③会長の選出方法、④総会の位置づけなどを現行の体制から変更することに合意できれば法人への移行に向けてより具体的に検討を進めるのが適切であるとの結論を得ました。この結論は、2023 年 6 月 24 日の総会で報告し、承認されました。

1 年に満たない短期間での集中的な検討を通じて、法人化に向けてさらに検討すべきことについて明らかになりました。同時に、法人化するには大きな労力を要するので、学会全体としてご理解、ご協力いただかないと進めるのが難しいということも確認されました。会員の皆様におかれましては、この法人化に向けた議論に関心を持っていただければと思います。

## 8. 学会創設 60 周年記念事業について

担当理事 森下 稔

日本比較教育学会は 2025 年 3 月末に創設 60 周年を迎えます。第 59 回大会における総会において 60 周年記念事業に取り組むことが承認されました。それを踏まえ、服部会長より担当常任理事として指名されました森下です。私ごとですが、40 周年記念事業で冊子として発刊された『日本比較教育学会 40 年の歩み』では編集幹事としてお手伝いした経験が思い出されます。50 周年記念事業では、50 周年記念誌刊行委員会が組織され、『50 年の歩み』が CD-R によって編まれました。

過去の記念誌を参考にしながら、60 周年記念事業としてどのようなことに取り組むかを検討するところから始めたいと考えています。会長からは、過去の軌跡を形にして残すばかりでなく、未来志向の事業にしたいというご意見を承っています。それに加えて、今しか記録に留めることができないことと、デジタル技術の普及で今だからできるようになったことを考えながら進めていきたいと考えます。そのため、当面は委員会を組織せずに企画を進め、事業の姿が見えてきたときに組織と予算を提案するよういたします。

会員のみなさまからご意見をお寄せいただければ幸いです。また、事業の推進にご協力いただけますようお願い申し上げます。

## 9. 第 60 回大会について

来年開催予定の第 60 回大会は、名古屋大学が大会校をお引き受けすることとなりました。名古屋大学での開催は 2014 年の第 50 回大会以来となります。開催日は 2024 年 6 月下旬（6 月 28 日～30 日）を予定しておりますが、最終的な開催日につきましては決まり次第、ホームページやメーリングリストでお知らせいたします。原則、対面を重視した開催形態を考えております。皆さまに名古屋を楽しんでいただけるよう準備いたします。大会準備委員会スタッフ一同、皆様のお越しをお待ちしております。

## 10. お知らせ

### ●2022 年度会計報告

<WEB 版では非公開>

2022 年度の会計報告として、収入の部において会員による会費納入が担保されたため会費収入が安定的であったことが挙げられる。支出においては、オンライン理事会等を継続し通信費・交通費を節約できたことがポイントになる。繰越金が多いことから、会員の学会活動に資する予算執行が今後より求められると考えられる。

### ●2023 年度予算案

<WEB 版では非公開>

### ●ニューズレター44 号発行の延期について

ニューズレターは毎年 9 月と 3 月に発行しておりますが、2023 年 3 月の発行は行いませんでした。例年 3 月に掲載されていた大会のご案内と、理事選挙につきましては、メーリングリストと郵送にて別途ご案内させていただきました。事後のご報告になりますことを会員の皆様にお詫び申し上げます。

### ●事務局の移転について

事務局は 2023 年 6 月の総会で名古屋大学に移転しました。学会運営に関する連絡は以下の事務局（名古屋大学内）までお願いします。住所は以下の通りです。なお、メールアドレスは今までと同じです。

〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学大学院教育発達科学研究科  
日本比較教育学会事務局（松本研究室）  
E-mail: jcesjimu@outlook.jp

## ●学会への寄贈図書

以下の図書を、著者・出版社より本学会にご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。なお、紀要および研究報告書の寄贈については、数量多数のため、掲載を割愛させていただきます。ご了承ください。

- OECD 教育研究革新センター編著、立田慶裕監訳『学習の環境 イノベーティブな実践に向けて』、明石書店、2023年。( <https://www.amazon.co.jp/dp/4750355550> )
- 金子聖子著『国際移動時代のマレーシア留学—留学生の教育から職業・移民への移行』、明石書店、2023年。( <https://www.amazon.co.jp/dp/4750355119> )
- 京免徹雄、小畑理香編著、園山大祐監修・監訳、田川千尋監訳『教師の社会学—フランスにみる教職の現在とジェンダー』、勁草書房、2022年。( <https://www.amazon.co.jp/dp/4326603542> )
- 経済協力機構、加藤静香編著『高等教育マイクロレジデンシャル：履修証明の新たな次元』、明石書店、2022年。( <https://www.amazon.co.jp/dp/4750354546> )
- ゲイリー・マッカロック、スティーヴン・コーワン著、小川佳万、三時眞貴子監訳『イギリス教育学の社会史—学問としての在り方をめぐる葛藤』、昭和堂、2023年。( <https://www.amazon.co.jp/dp/4812222087> )
- 小玉亮子、一見真理子編著『幼児教育史研究の新地平—幼児教育の現代史』、萌文書林、2022年。( <https://www.amazon.co.jp/dp/4893473832> )
- サリー・トムリンソン著、古田弘子、伊藤駿監訳『特殊教育・インクルーシブ教育の社会学』明石書店、2022年。( <https://www.amazon.co.jp/dp/4750354902> )
- 千田沙也加著『カンボジア「クルー・チャットン」の時代—ポル・ポト時代後の初等教育』、東信堂、2023年。( <https://www.amazon.co.jp/dp/4798918040> )
- 武井哲郎、矢野良晃、橋本あかね編著『不登校の子どもとフリースクール—持続可能な居場所づくりのために』、晃洋書房、2022年。( <https://www.amazon.co.jp/dp/4771036748> )
- 徳永智子、角田仁、海老原周子編著『外国につながる若者をつくる多文化共生の未来』、明石書店、2023年。( <https://www.amazon.co.jp/dp/4750355518> )
- 中田麗子、佐藤裕紀、本所恵、林寛平、北欧教育研究会編著『北欧の教育再発見—ウェルビーイングのための子育てと学び』、明石書店、2023年。( <https://www.amazon.co.jp/dp/4750355631> )
- 浜野隆著『非認知能力×認知能力 子どもの才能を伸ばす 最高の子育て』ソシム、2023年。( <https://www.amazon.co.jp/dp/4802614160> )
- 八島美菜子、小笠原文、伊藤駿編著『未来をひらく子ども学—子どもを取り巻く研究・環境・社会』、福村出版、2023年。( <https://www.amazon.co.jp/dp/4571102038> )

### 図書・刊行物の送付、学会運営に関する連絡

〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学大学院教育発達科学研究科  
日本比較教育学会事務局（松本研究室）  
E-mail: [jcesjimu@outlook.jp](mailto:jcesjimu@outlook.jp)  
TEL: 052-789-2634  
(不在のことが多いため、できるだけメールでご連絡ください。)

## ●新入会員

<WEB 版では非公開>

## ●年会費納入のお願い

年会費納入状況をご確認いただき、未納分がある方は下記の口座へ早めのご納入をお願いいたします。紀要は年 2 回発行ですが、本学会では当該年度の会費納入を確認後、学会紀要『比較教育学研究』をお送りしています。3 年を超えて会費未納の方は会員資格を失います。

〔郵便振替口座〕00820-6-16161 日本比較教育学会事務局

### 【注意】

所属機関名にて振込を行われる場合は、該当会員を特定することが難しいため、必ず事務局へご連絡をお願いします。

「学生会員」として登録されている会員で、所属・身分等の変更により「学生」でなくなった方は、会員情報管理システムにて通常会員へ資格変更の上、通常会員としての年会費（10,000 円）をお支払いください。

### 会員情報、入退会、会費、システム、HPIに関する連絡

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-24-1

第2ユニオンビル4F

(株)ガリレオ東京オフィス学会業務情報化センター内  
日本比較教育学会事務局

Tel : 03-5981-9824/ Fax : 03-5981-9852

E-mail : g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp

URL : <http://www.gakkai.ne.jp/jces/>

## ●特別会員制度について

すでにご案内申し上げておりますとおり、2020 年 8 月に開催された総会にて、「特別会員」制度が認められました。この制度は「本会に対して一定の貢献があり、原則として 10 年以上にわたり本会の会員である者。かつ、常勤の定職にはついておらず学生の身分ではない者。」（会則第 4 条関係：細則第 2 条）となっており、会費は年額金 6,000 円です。特別会員になる場合には、学会事務局に申込み、常任理事会での承認を得ることとされています。お申し出は随時、学会事務局（jcesjimu@outlook.jp）で受け付けております。